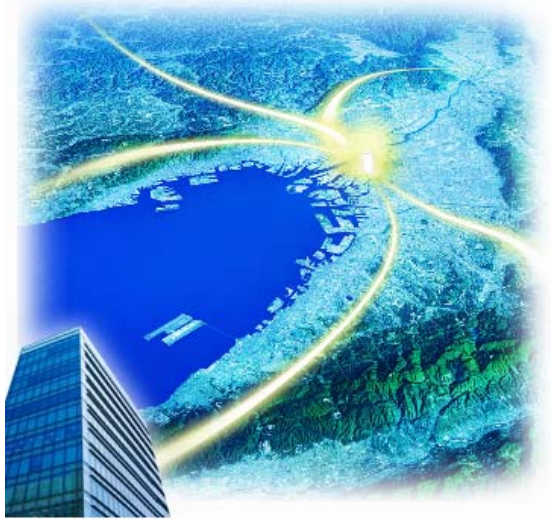
親切で新しい

平成23年度　中間決算について

平成23年11月

株式会社　池田泉州ホールディングス

株式会社　池田泉州銀行



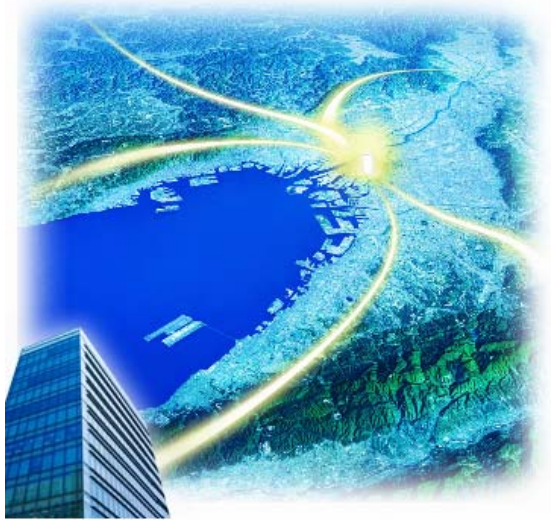
地域からのご支持No.1を目指して…

目次

Ⅰ　平成 23 年度中間決算について ―― 2
　1　平成 23 年度中間決算の概要　（池田泉州銀行単体） ―― 3
　2　資金利益 ―― 4
　3－①　貸出金 ―― 5
　3－②　貸出金（事業性貸出） ―― 6
　3－③　貸出金（個人ローン） ―― 7
　4－①　預金 ―― 8
　4－②　預金（個人預金） ―― 9
　5－①　有価証券 ―― 10
　5－②　有価証券　（日本・欧米の国債への投資状況） ―― 11
　6　役務取引等利益 ―― 12
　7　コア業務純益 ―― 13
　8　不良債権比率・与信費用 ―― 14
　9　金融円滑化法への取り組み状況 ―― 15
Ⅱ　経営戦略の進捗状況について ―― 16
　1　池田泉州銀行のプロフィール ―― 17
　2　経営戦略　～勝ち残り戦略～ ―― 18
　3－①　効率化の徹底　～　統合効果　～ ―― 19
　3－②　効率化の徹底　～　シナジーとコスト削減　～ ―― 20
　4　アライアンス戦略 ―― 21
　5－①　３つの独自戦略　～　アジアチャイナ本部～ ―― 22
　5－②　３つの独自戦略　～　ﾌﾟﾗｲﾍﾞｰﾄﾊﾞﾝｷﾝｸﾞ本部・先進テクノ本部　～ ―― 23
　6　資本の状況 ―― 24
Ⅲ　平成 23 年度業績予想について ―― 25

※　平成22年５月１日付で、旧池田銀行と旧泉州銀行は存続会社を旧池田銀行として合併し、商号を池田泉州銀行に変更しおります。このため、池田泉州銀行単体においては、合併後に残高・損益の計数が以前と比較して変動しております。
上記の理由により、本決算説明資料においては、池田泉州銀行【単体】の計数について、各期の比較のため、平成22年中間期の数は、特に記載のない限り、旧池田銀行（平成22年５月以降は池田泉州銀行）と旧泉州銀行（平成22年４月）の計数を単純合算したものを記載しております。
※　平成21年度以前の計数は、旧池田銀行と旧泉州銀行２行の単体ベースの計数を単純合算したものです。

Ⅰ　平成23年度中間決算について



Ⅰ－１　平成23年度中間決算の概要（池田泉州銀行単体）

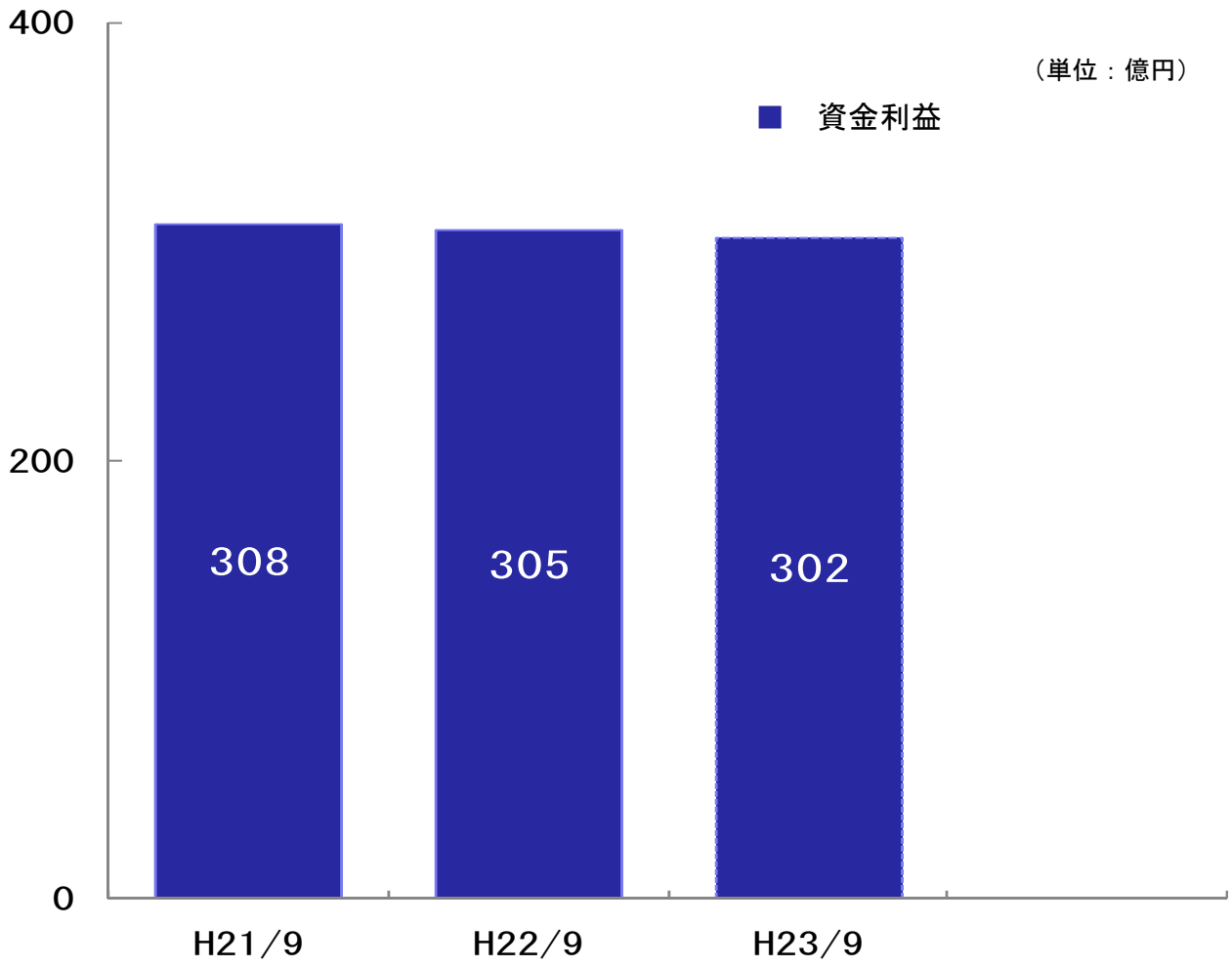
（単位：百万円）

		23年中間期	22年中間期比	22年中間期
1	業務粗利益	38,887	△879	39,766
2	資金利益	30,215	△327	30,542
3	役務取引等利益	1,527	△471	1,998
4	その他業務利益	7,144	△81	7,225
5	経費（除く臨時費用処理分）（△）	25,407	△509	25,916
6	うち人件費（△）	12,341	△140	12,481
7	うち物件費（△）	11,819	△230	12,049
8	実質業務純益（一般貸倒引当金繰入前）	13,480	△369	13,849
9	コア業務純益	7,003	△226	7,229
10	国債等債券損益	6,477	△143	6,620
11	一般貸倒引当金繰入額（△）	2,516	2,794	△278
12	業務純益	10,964	△3,164	14,128
13	臨時損益	△8,017	2,295	△10,312
14	経常利益	2,946	△869	3,815
15	特別損益	△174	△470	296
16	税引前純利益	2,772	△1,340	4,112
17	法人税等合計（△）	△770	△695	△75
18	純利益	3,543	△644	4,187
19	与信関連費用	6,524	△282	6,806

（注）従来、「償却債権取立益」は、特別損益に計上しておりましたが、「金融商品会計に関する実務指針」（日本公認会計士協会会計制度委員会報告第14号）に基づき、平成23年６月期より、臨時損益として、不良債権処理額の控除項目として表示しております。

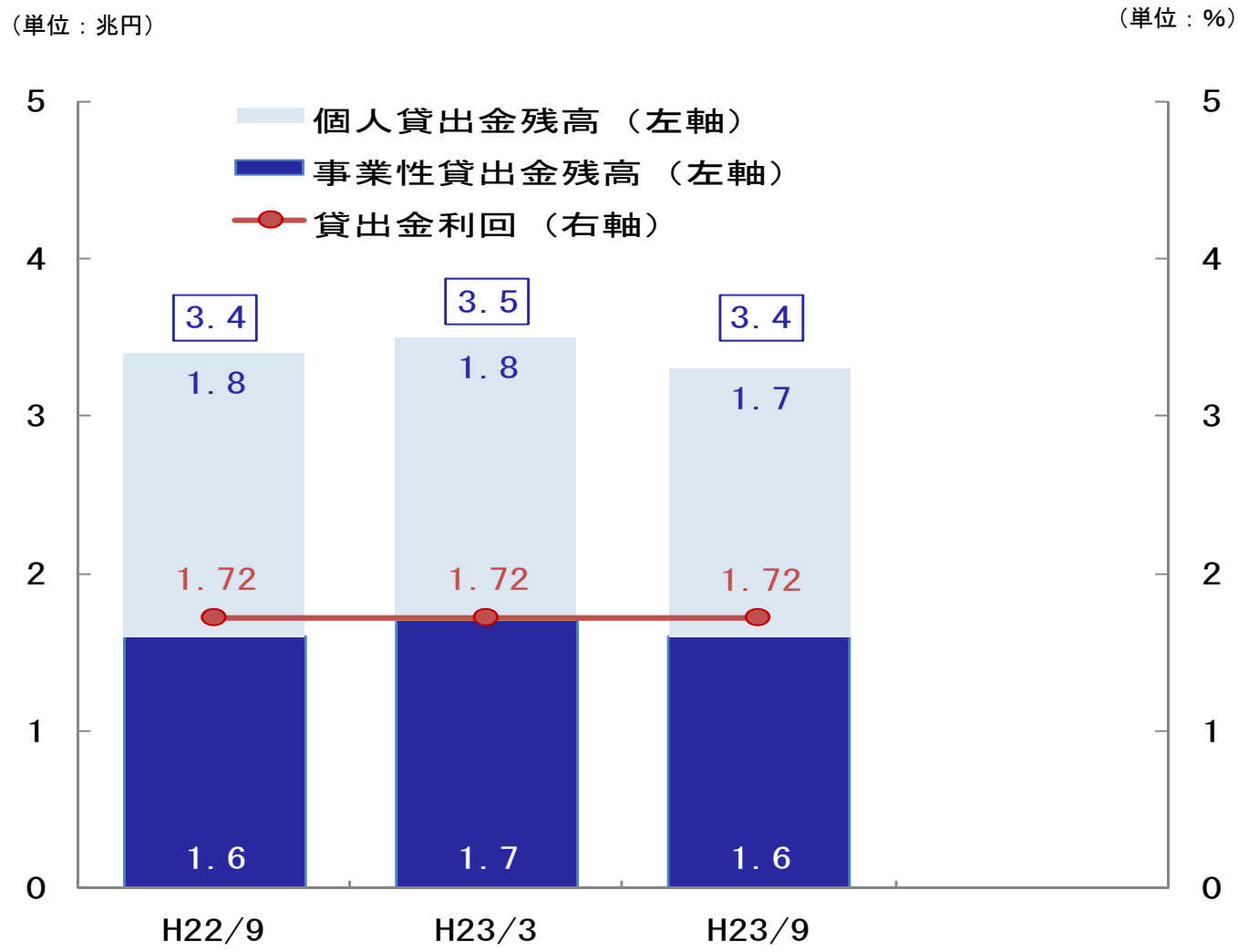
Ⅰ－２　資金利益

■　預貸収支は増加したものの、有価証券利回りの低下により、前年同期比3億円減少。



Ⅰ－３－①　貸出金

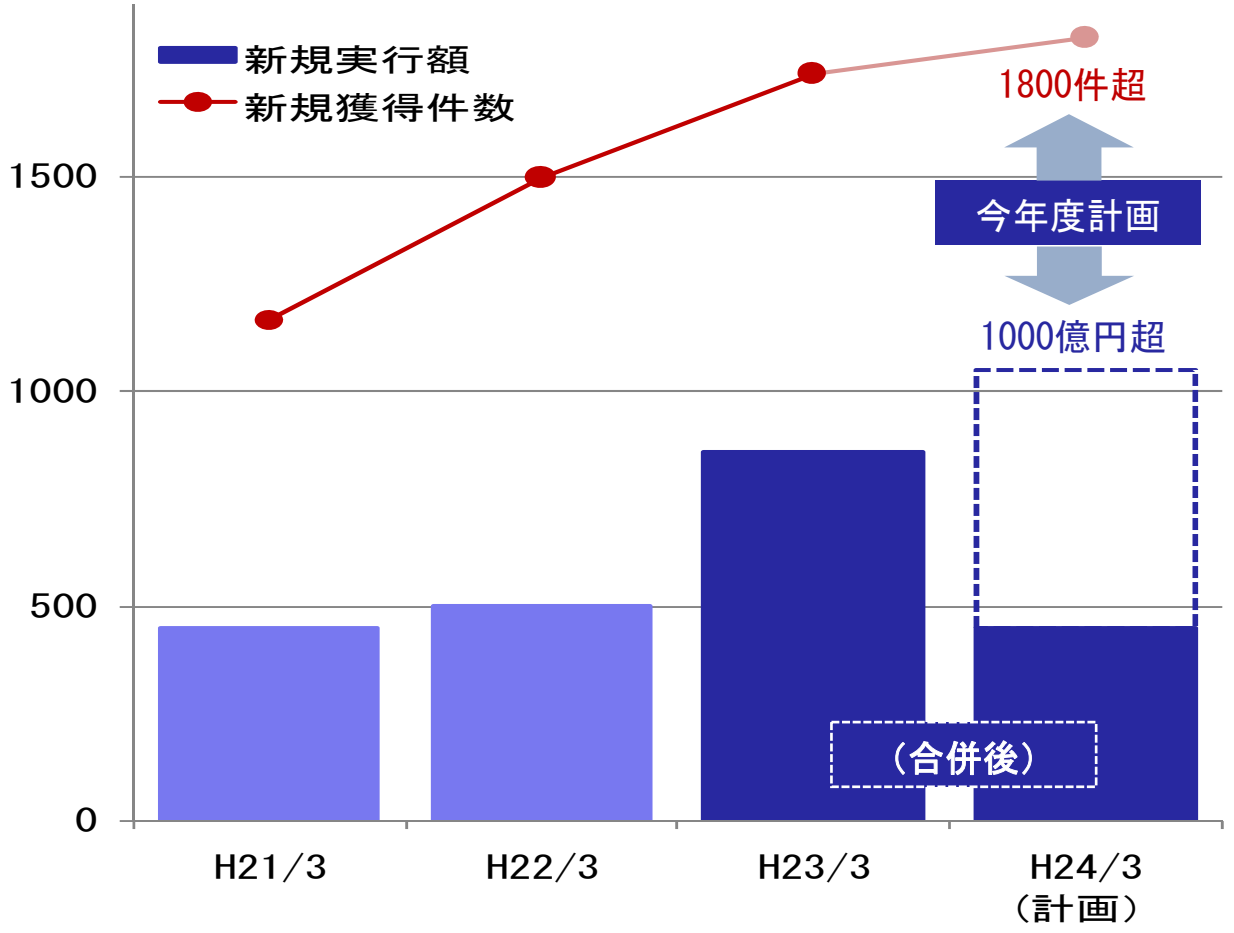
■　貸出金利息は、事業性貸出の減少を個人ローンでカバーし、前年同期比水準を維持。



Ⅰ－３－②　貸出金（事業性貸出）

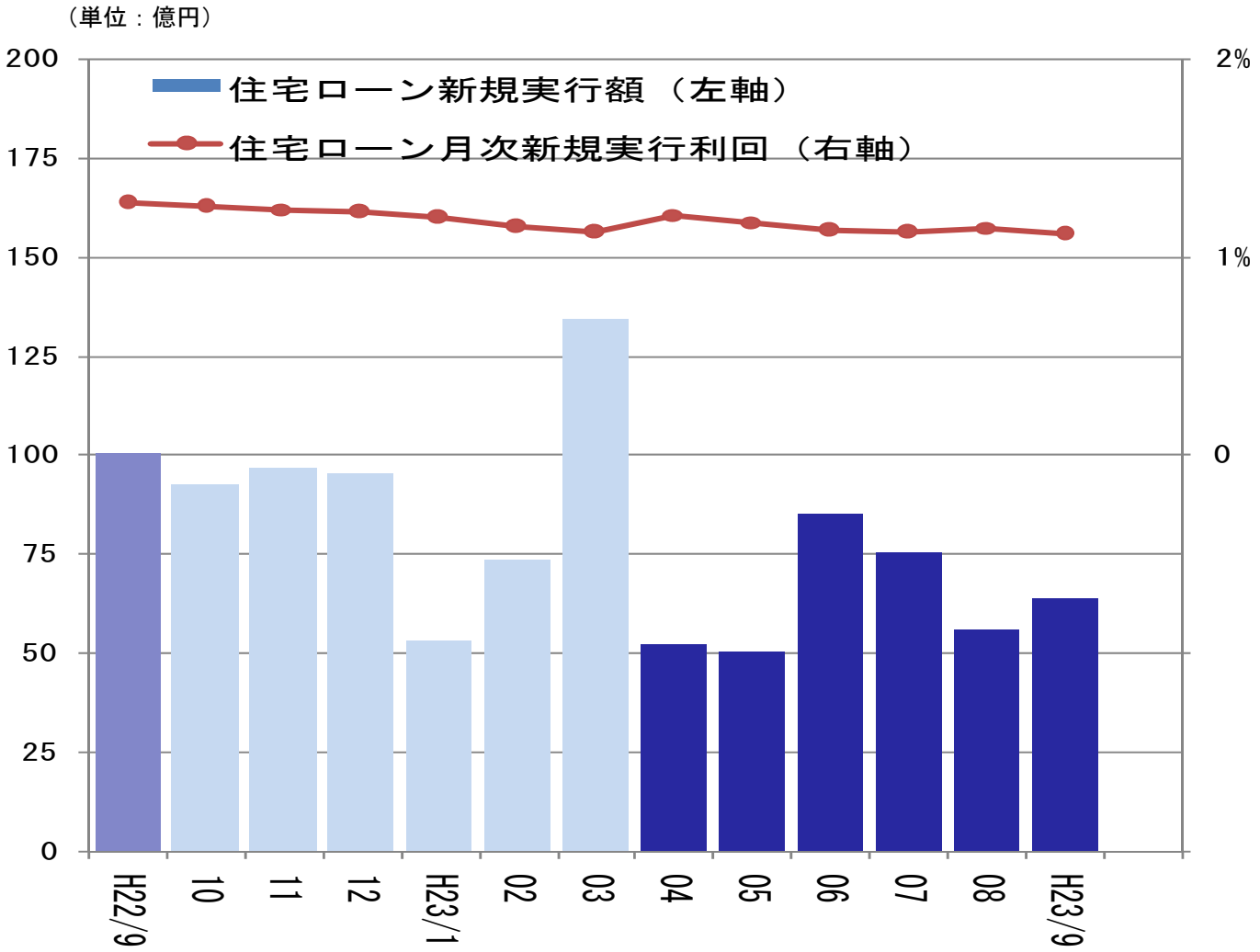
■　地公体との産業振興協定や提携商品等を活用し、地元企業への融資拡大に注力。

（単位：億円／件）



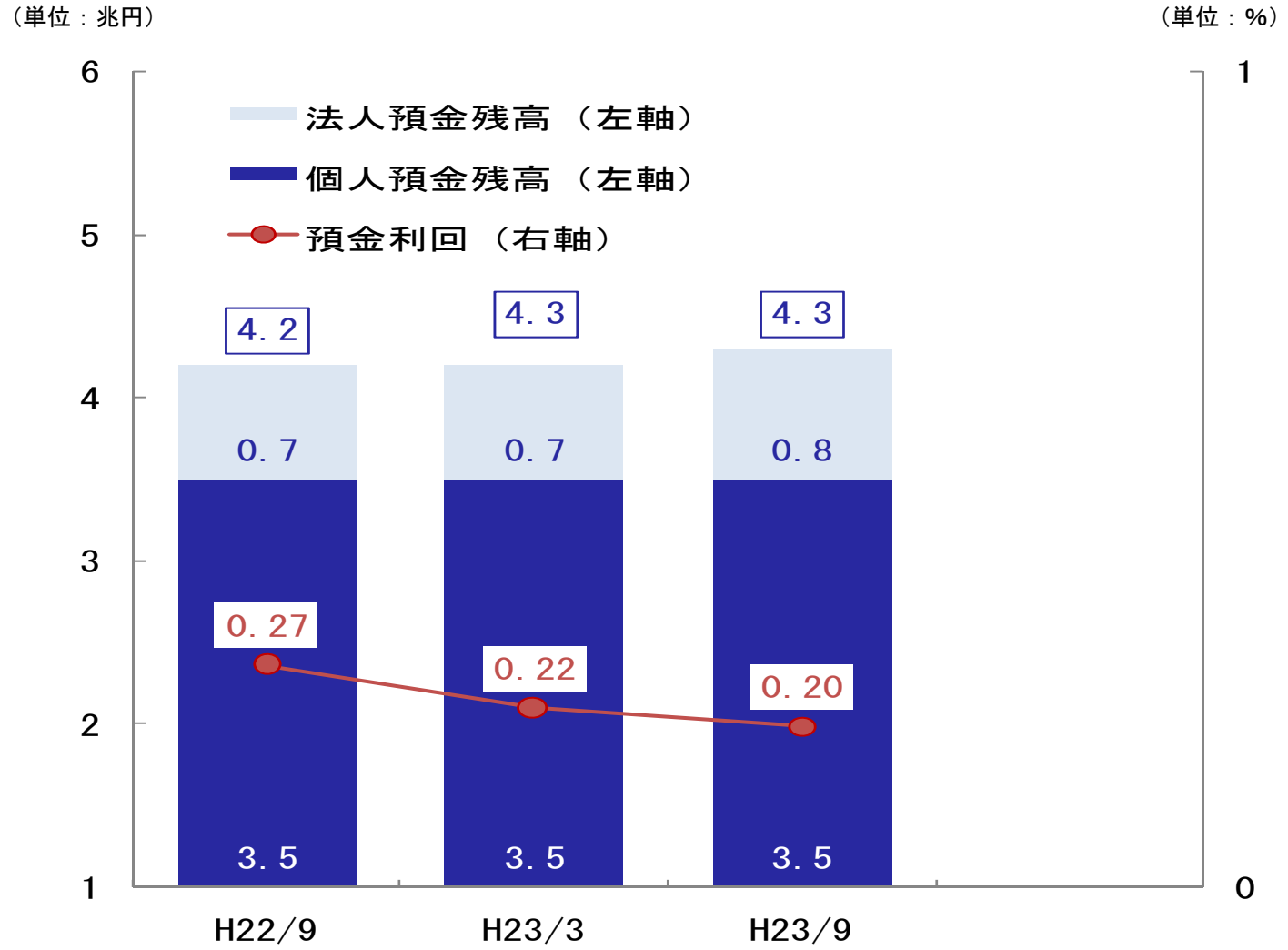
Ⅰ－３－③　貸出金（個人ローン）

■　当行エリア外の案件取組みを抑制するとともに、より適正な金利を確保。



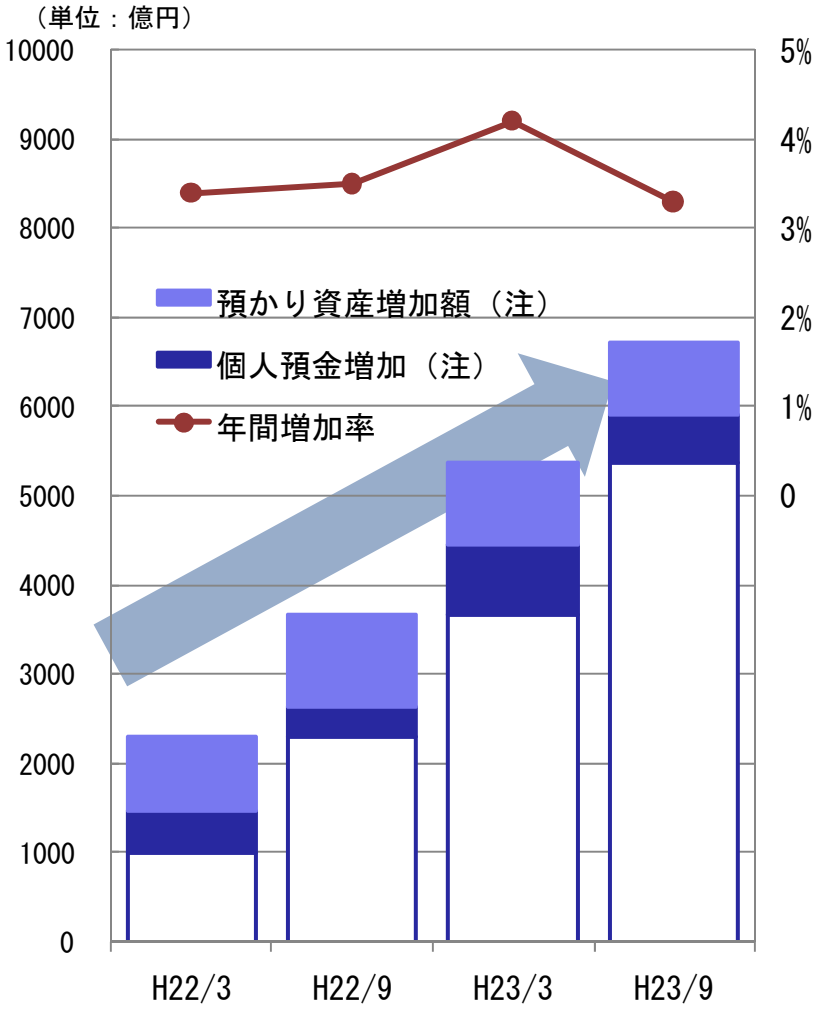
Ⅰ－４－①　預金

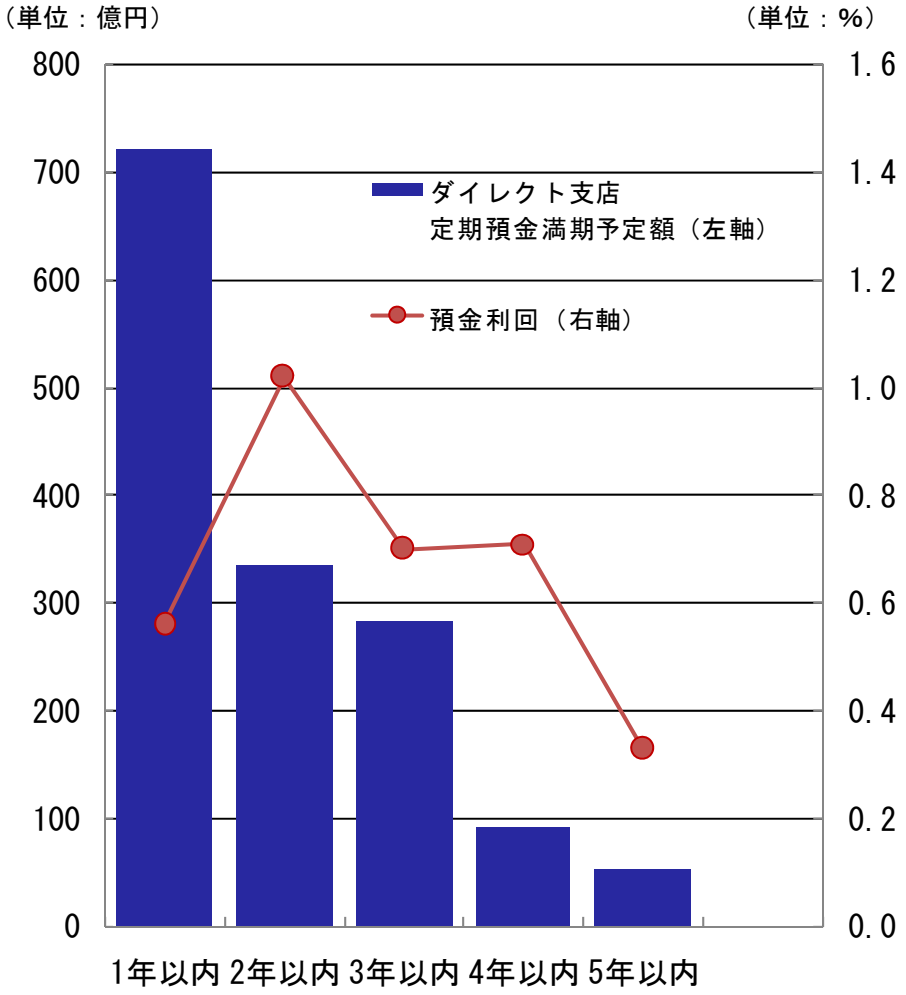
■　高金利のインターネット預金の取り入れを抑制し、前年同期比、利回りは大幅に低下。



Ⅰ－４－②　預金（個人預金）

■　個人預金に預り資産を加えた残高は、年率3%水準で引き続き堅調に推移。
■　来年度以降も、インターネット預金の抑制による金利引き下げ効果を見込む。

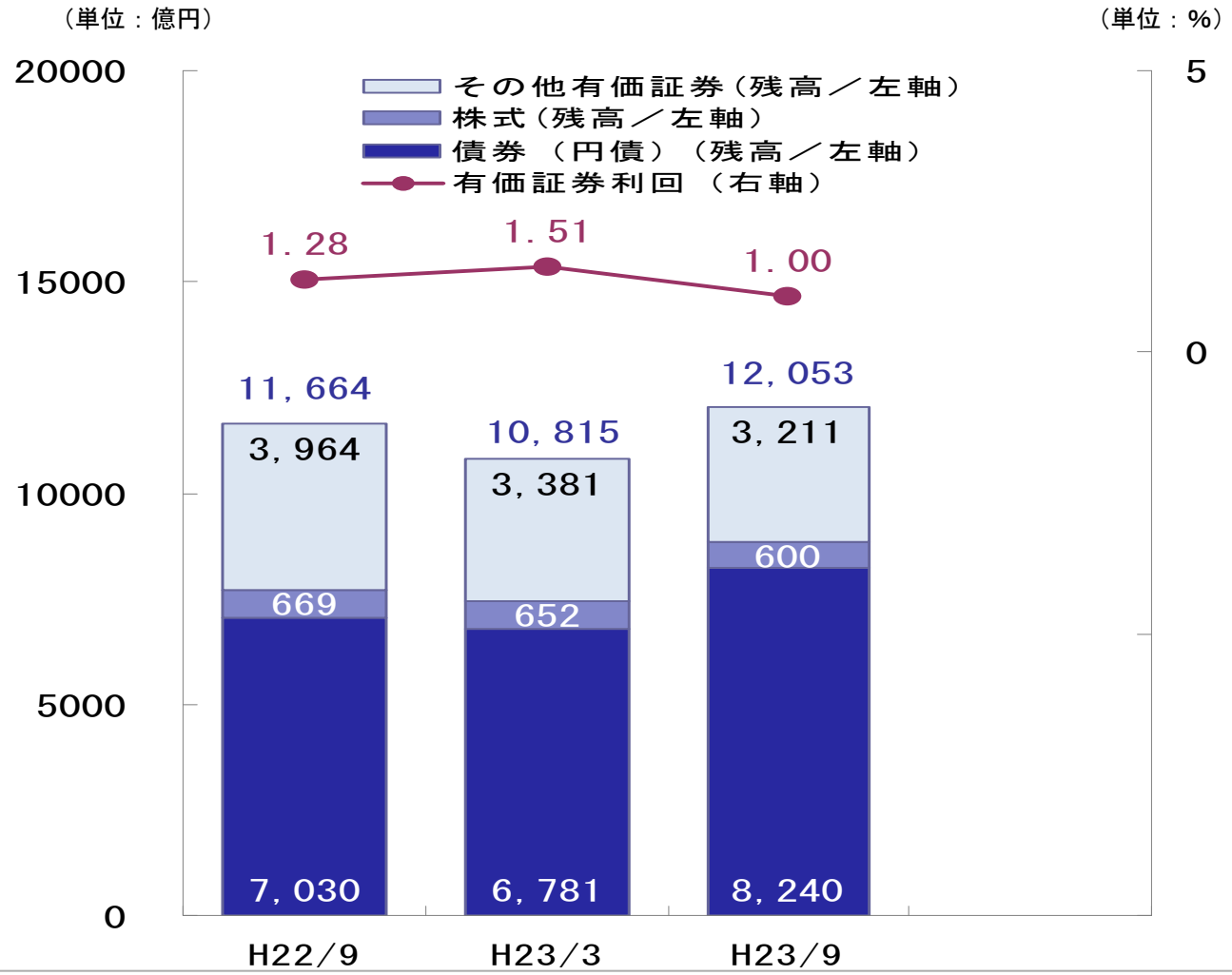




（注）個人預金の増加額はダイレクト支店の定期預金を除く。預り資産の増加額は簿価ベース。
ダイレクト支店＝インターネット等を利用するバーチャル支店。

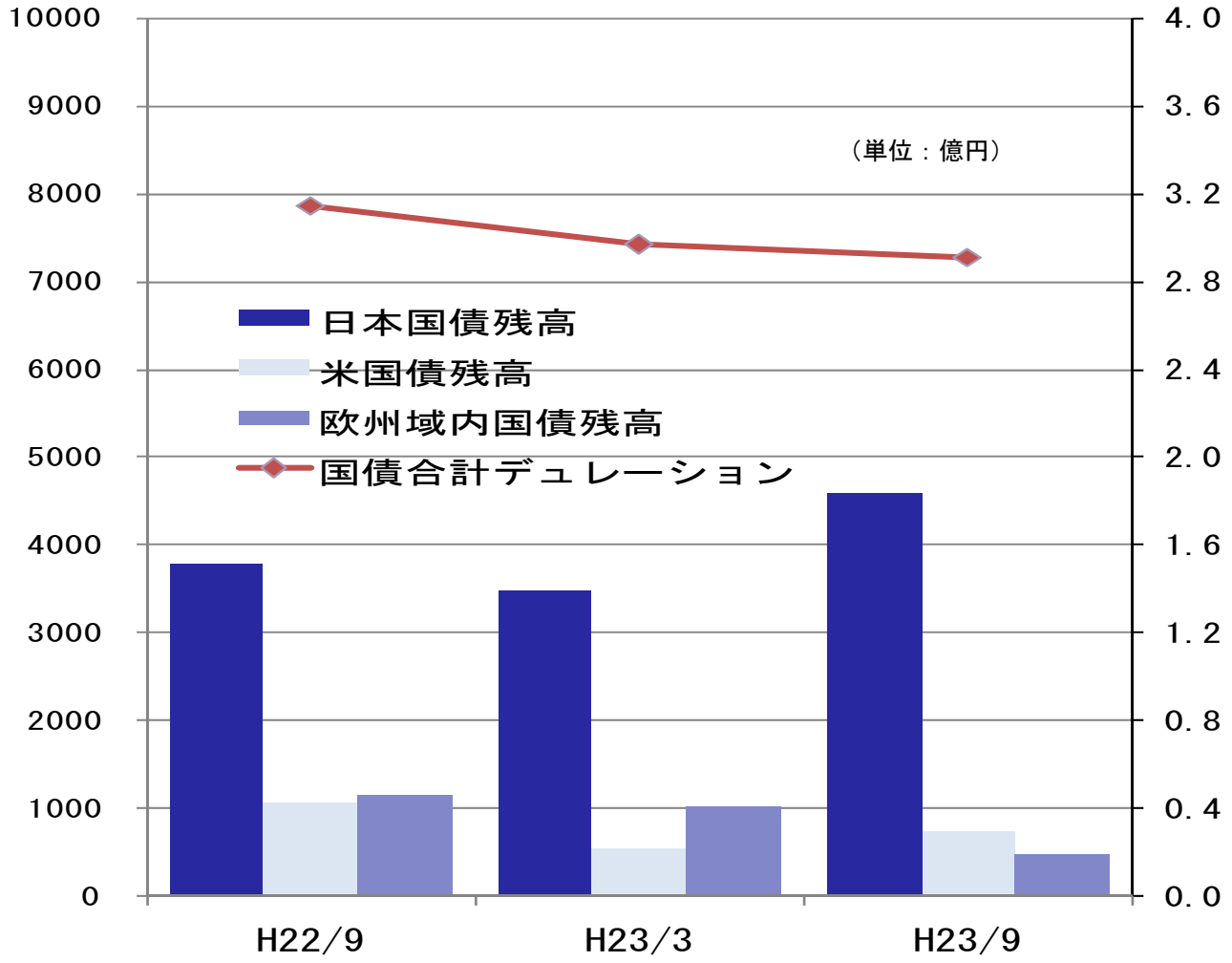
Ⅰ－５－①　有価証券

■　金利上昇リスクを考慮し、国内の中短期債中心の堅実な運用に努める。
■　利回りの低下は、その他有価証券のリスクコントロールによるもの。



Ⅰ－５－②　有価証券（日本・欧米の国債への投資状況）

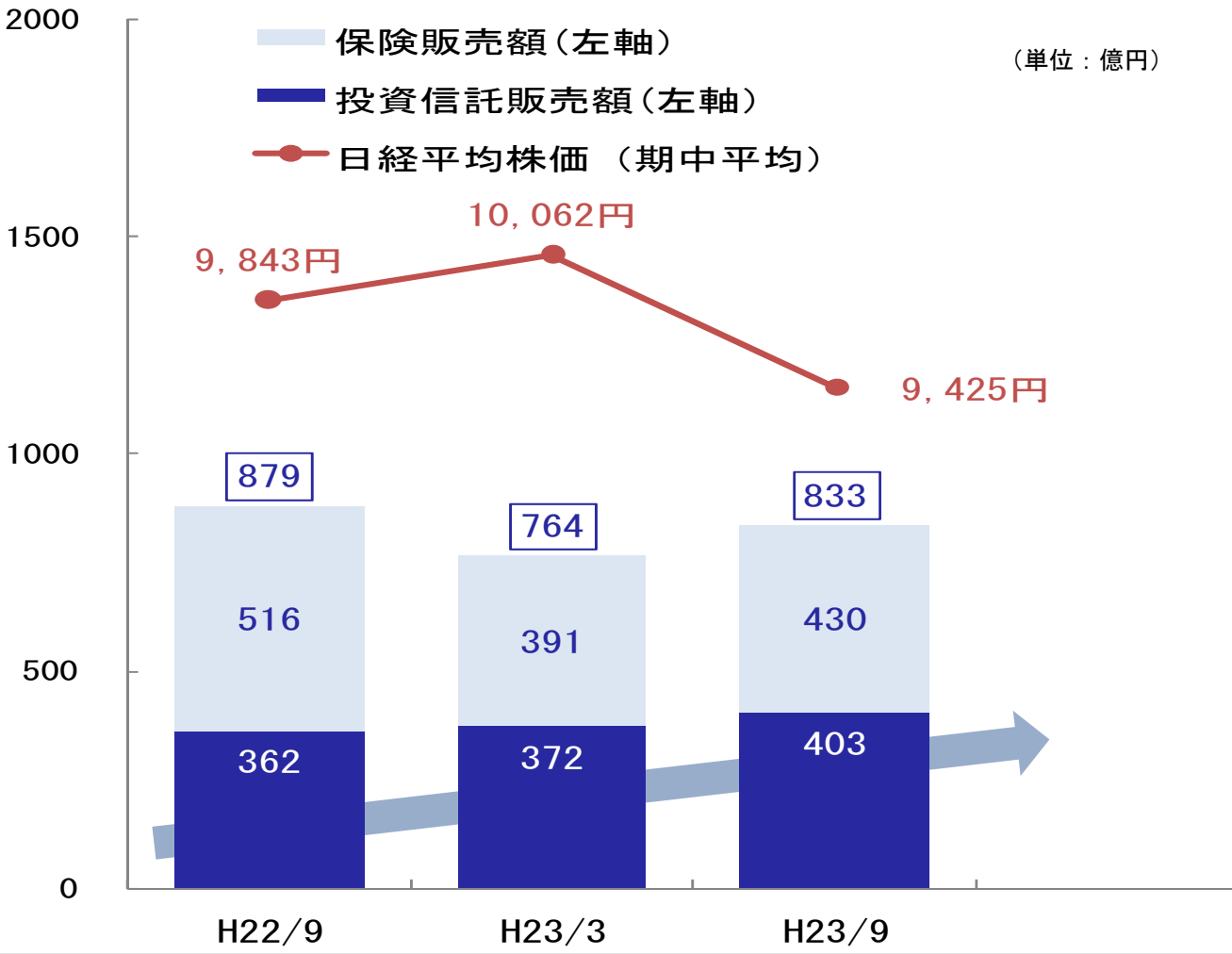
■　短期の日本国債中心の運用によりデュレーションは短期化、金利リスクは低下。
■　外国国債については、欧州の長期債を中心に残高を圧縮。



（注）当該ページ記載のデュレーションは国債のみのデュレーション（前ページはすべての債券）

Ⅰ－６　役務取引等利益

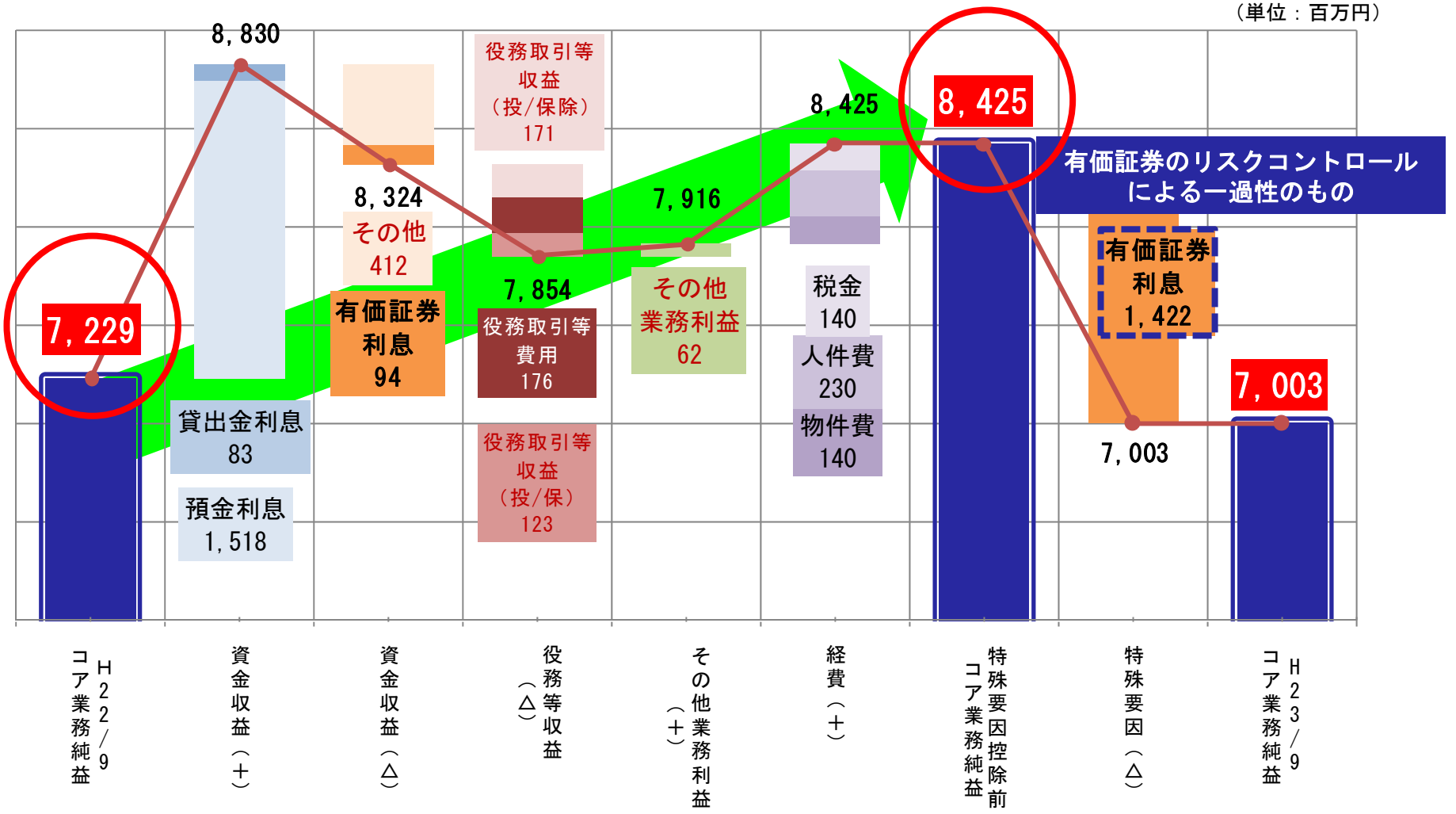
■　預り資産については、環境厳しい中、前年同期の水準を維持。



Ⅰ－７　コア業務純益

■　預金貸金利益が増加、本業の収益は順調に増加傾向が続く。
■　コア業務純益は、有価証券のリスク・コントロールの影響もあり、前年同期比横ばい。

（単位：百万円）

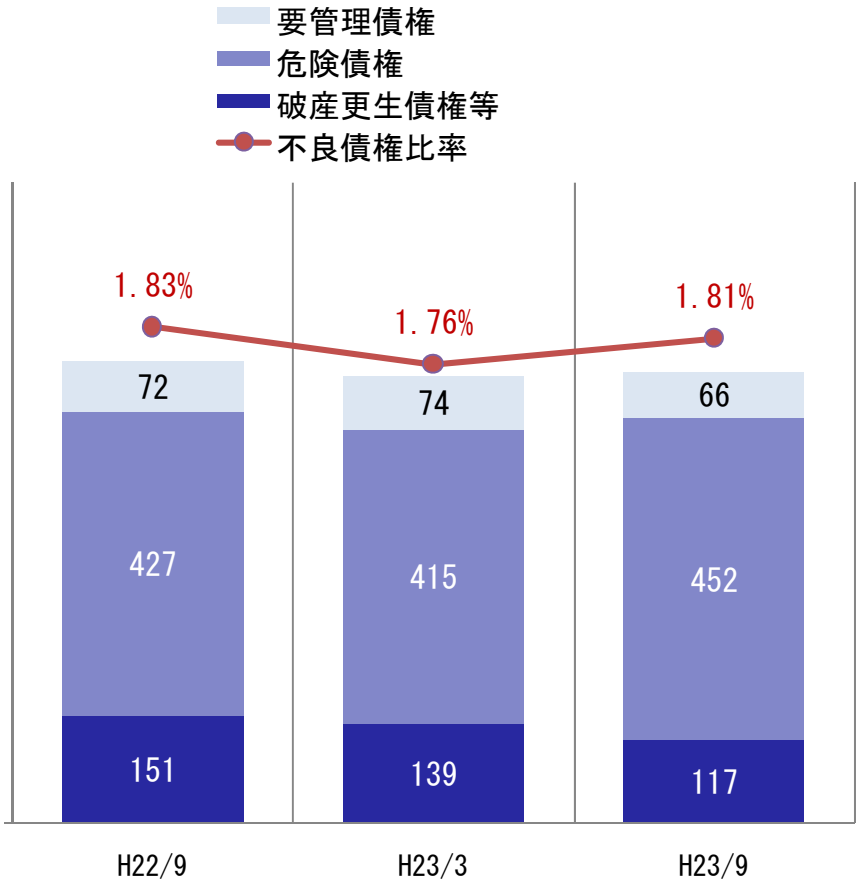


（注）コア業務純益＝業務粗利益－債券関係損益－経費

Ⅰ－８　不良債権比率・与信費用

■　金融再生法開示債権残高は、前年9月末比減少。
■　総与信に占める比率は、引き続き、地銀でもトップクラスの低水準を維持。

（単位：億円）



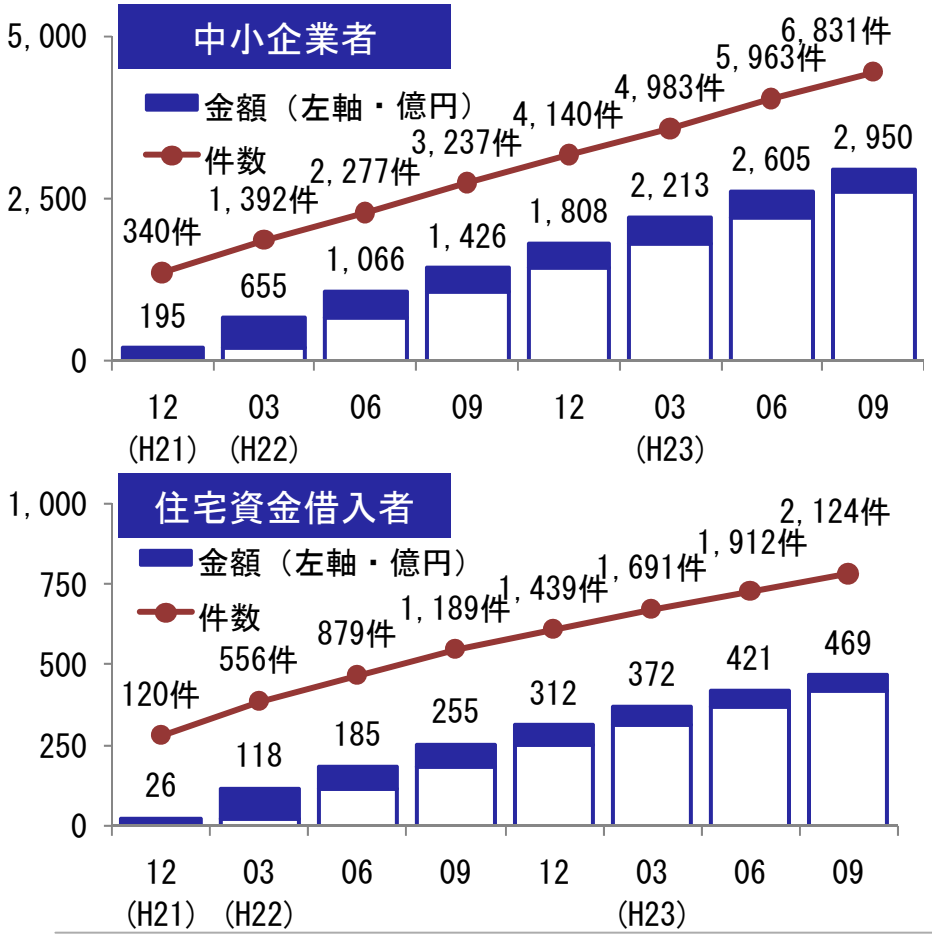
（単位：億円）

		23年中間期	前年同期比	22年中間期
1	与信コスト	65	△2	68
2	不良債権処理額	43	△31	75
3	償却債権取立益	△3	0	△4
4	一般貸倒引当金繰入額	25	27	△2

Ⅰ－９　金融円滑化法への取り組み状況

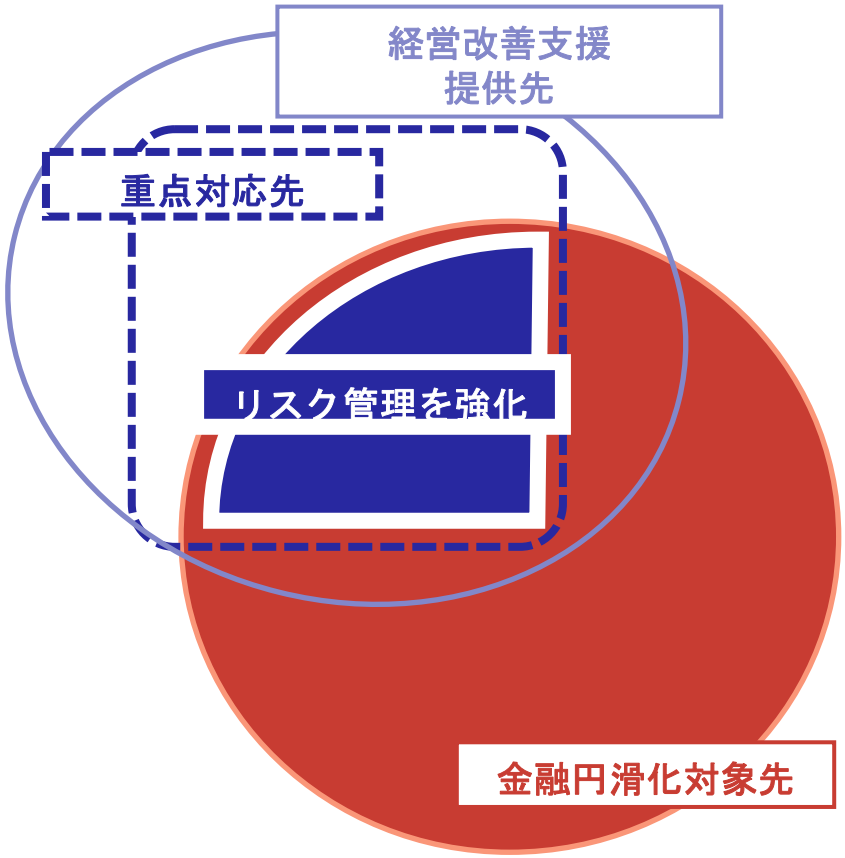
■　地域金融機関として、地域密着型金融、金融円滑化推進に積極的に取り組む。
■　将来の環境変化も想定し、重点対応先中心に、コンサル機能・リスク管理を強化。

貸付けの条件の変更等の申込みを受けた貸付債権額

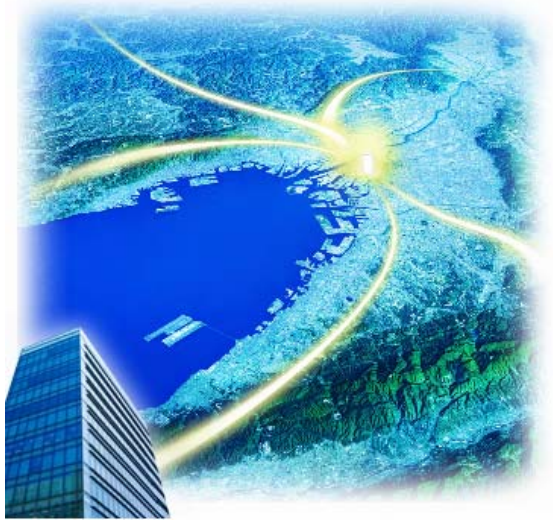


地域密着型金融の取り組み

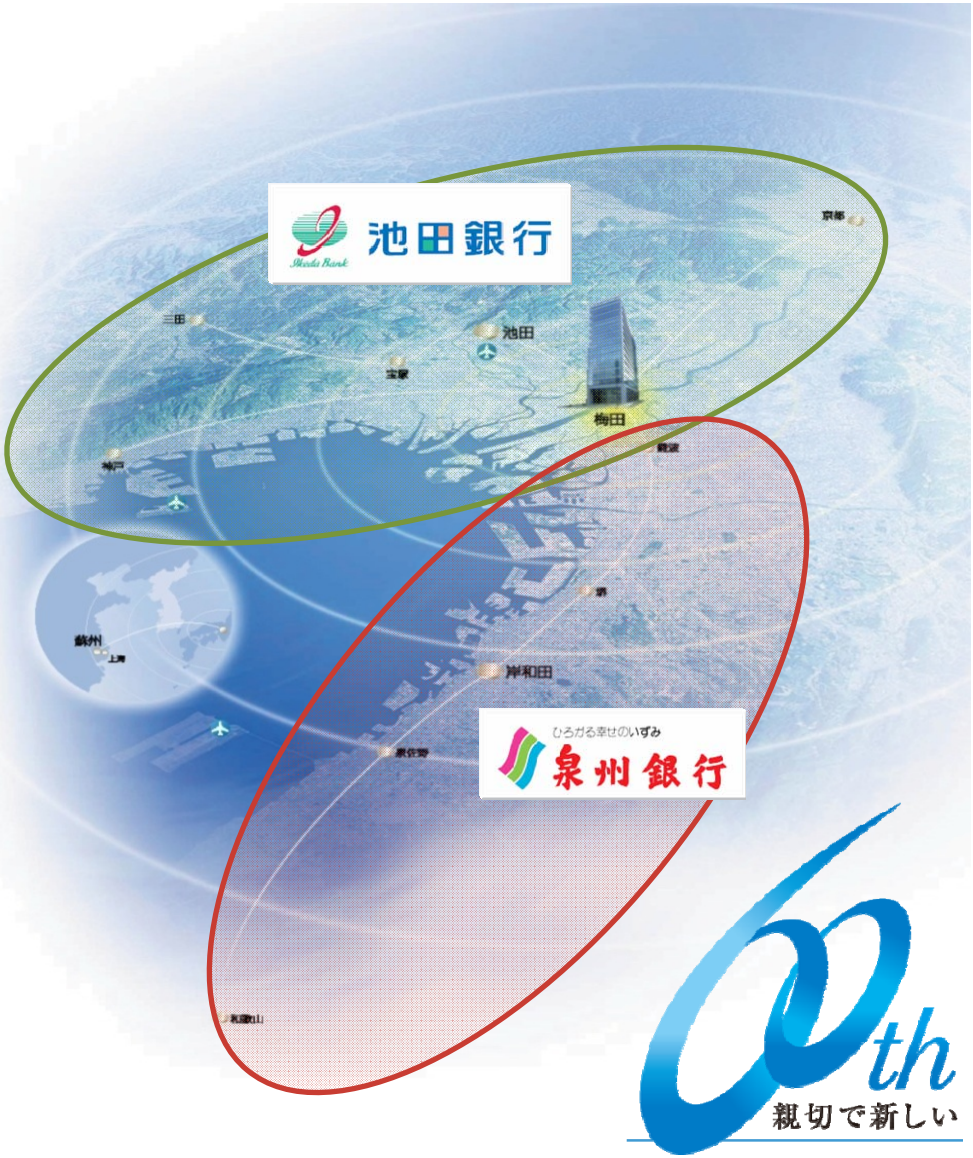
（イメージ）



Ⅱ　経営戦略の進捗状況について



Ⅱ－１　池田泉州銀行のプロフィール

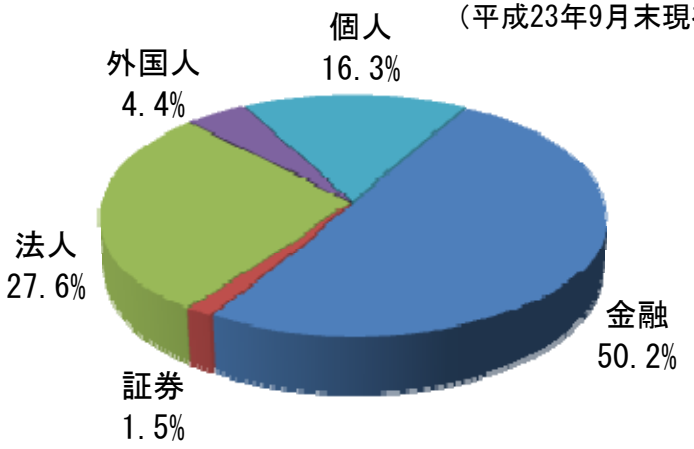


（平成23年9月末現在）

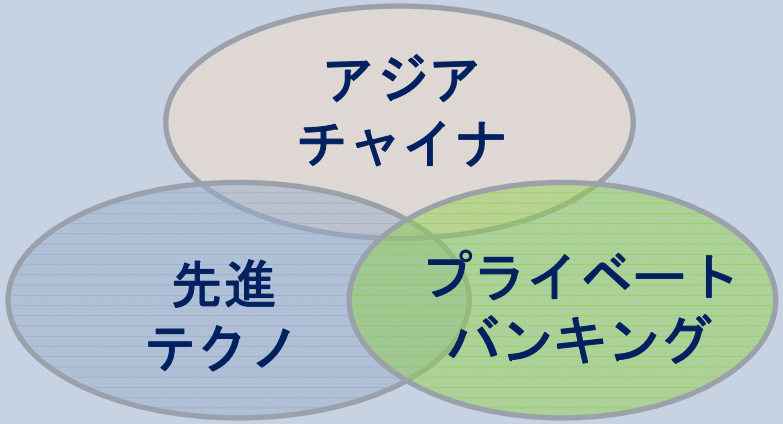
設立日	昭和26年9月1日
所在地	大阪市北区茶屋町18番14号
資本金	507億円
預金	4.3兆円
貸出金	3.4兆円
店舗数	141ヶ店
店舗外ATM	184ヶ所 （駅のATMPatSat64ヶ所含む）

池田泉州ホールディングス
株主構成

（平成23年9月末現在）



Ⅱ－２　経営戦略　～勝ち残り戦略～

【企業の生き残りの3原則】		【　勝　ち　残　り　戦　略　】
徹底したコスト削減と効率化	①	徹底した効率化 統合・合併シナジー
競争相手を 「抹殺する」「減らす」	②	アライアンス戦略 開かれたＨＤ・銀行
差別化を図る 独自の特色を持つことに チャレンジする	③	３つの独自戦略 

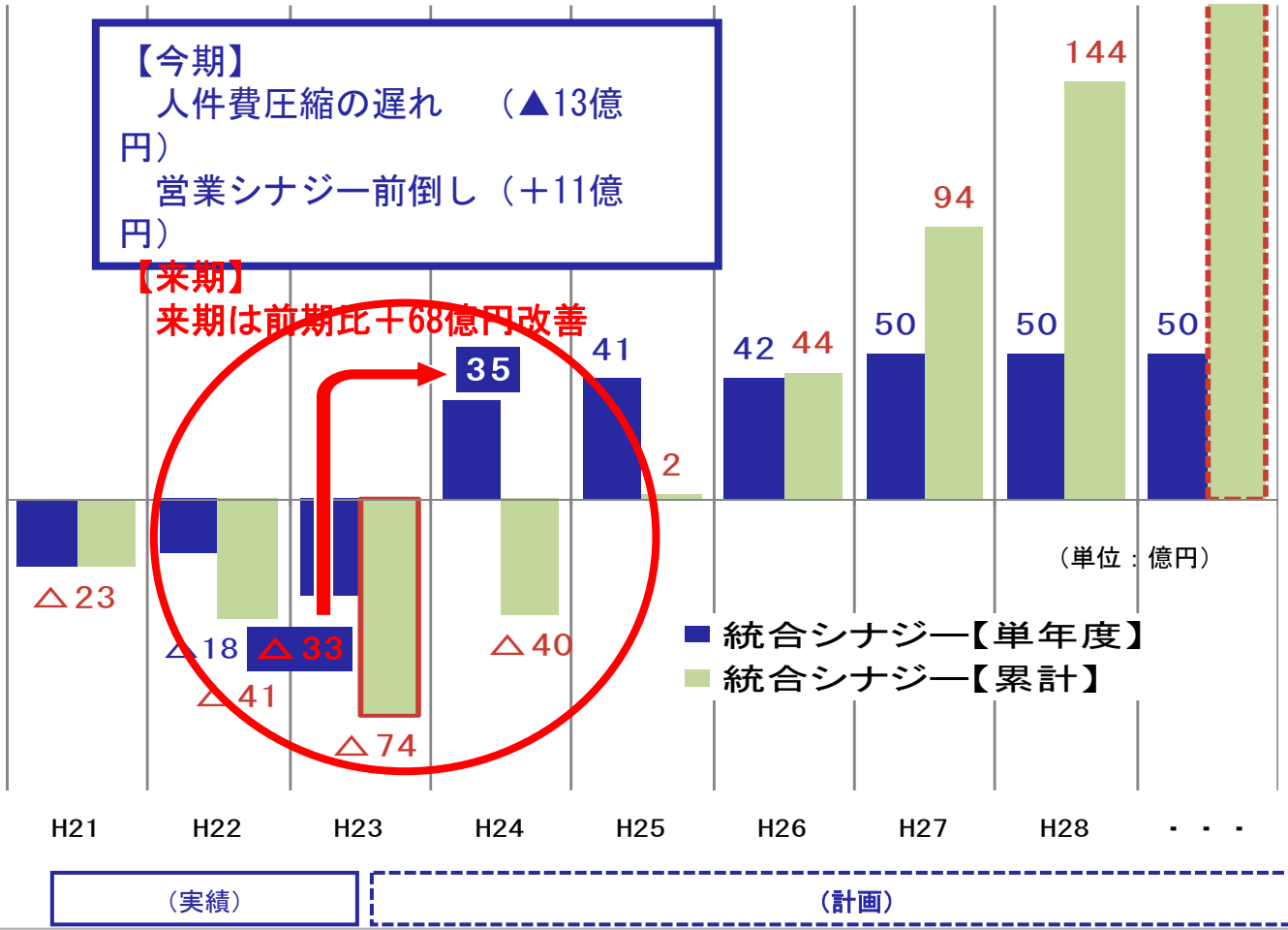
東　京　大　学
伊　藤　元　重　教　授

池田泉州銀行

Ⅱ－３－①　効率化の徹底　　～統合効果～

■　今年度の計画は、営業シナジーの前倒しにより、一部の遅れをキャッチアップ。

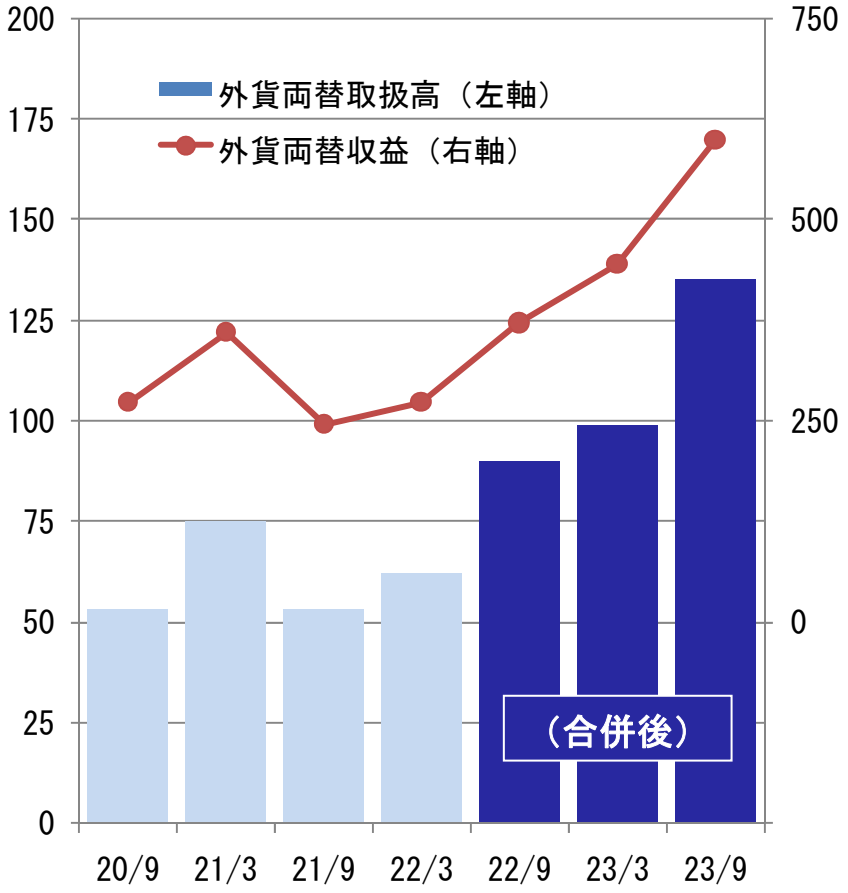
【統合効果　全体】



Ⅱ－３－②　効率化の徹底　　～シナジーとコスト削減～

■　梅田外貨両替ショップ出店効果により、外貨両替取扱高は地銀トップレベルに。
■　経費削減を徹底的に実施するとともに、本部人員圧縮は更に加速させる予定。

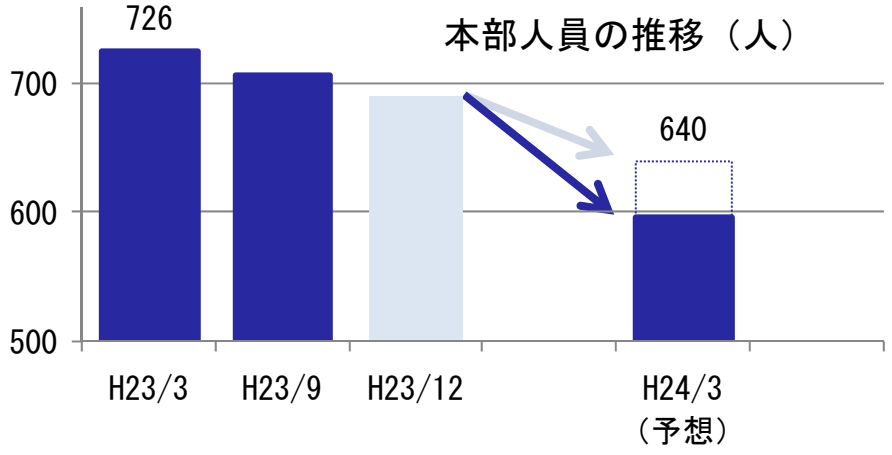
（単位：百万米ドル）　　（単位：百万円）



（単位：百万円）

	H23/9	前年同期比	H22/9
経費	25,407	△ 509	25,916
人件費	12,341	△ 140	12,481
物件費	11,819	△ 230	12,049

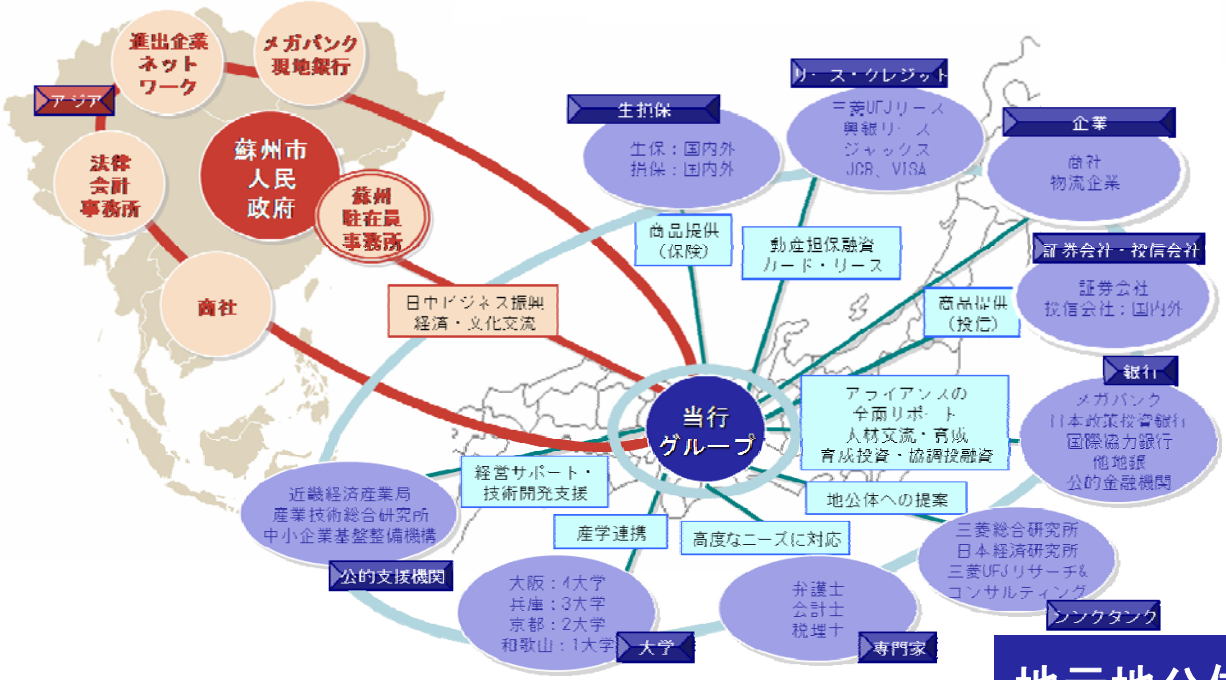
システム統合後、本部人員を更に削減



Ⅱ－４　アライアンス戦略

■　地域活性化、顧客サポート力強化のため、ネットワークを更に拡充中。
■　地元地公体、内外金融機関、地元大学、総合物流企業等、幅広く連携を強化。

中国の大手3行
中国工商銀行/中国銀行/交通銀行



日本通運 NIPPON EXPRESS

国際協力銀行 JBIC

兵庫県立大学 UNIVERSITY OF HYOGO

地元地公体との連携強化
大阪府　堺市・箕面市
兵庫県　伊丹市

Ⅱ－５－①　３つの独自戦略　～アジアチャイナ本部～

■　「アジア・ゲート」という「地の利」を活かし、積極的に活動を推進。
■　アジア・チャイナ・ビジネスを切り口に、融資・預金等、総合取引に発展。

【アジアチャイナ本部】

アジアチャイナ関連相談件数

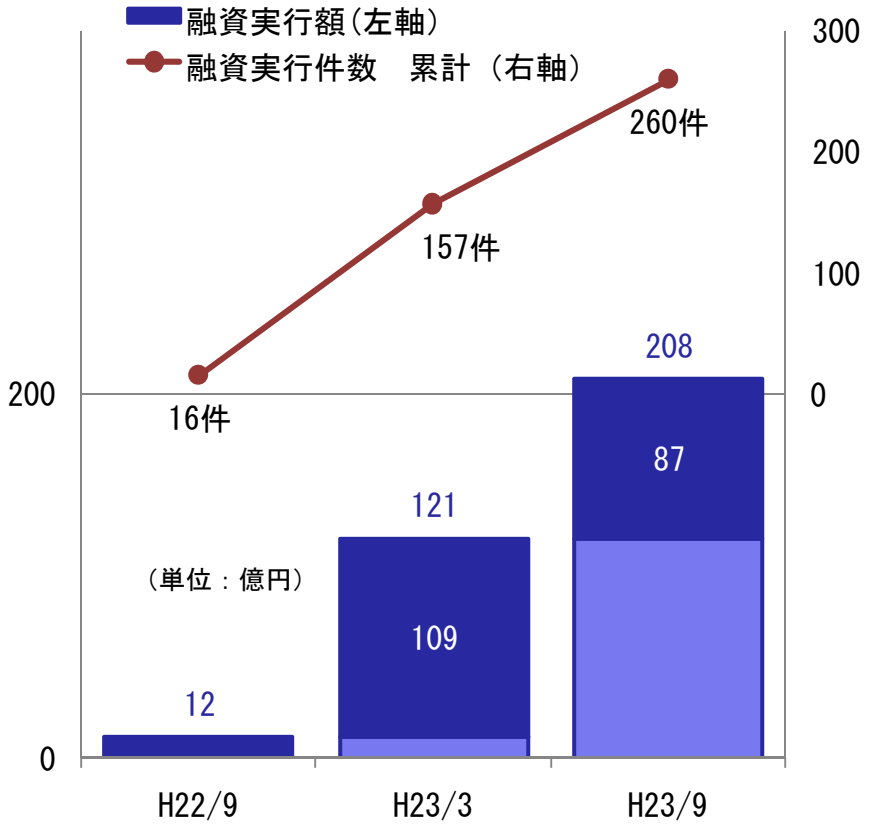
（新銀行発足後～23/9月末）

	海外進出支援	海外販路開拓	海外仕入先開拓	外為取引	人民元決済	その他	合計
件数（累計）	177	129	78	223	114	123	844

アジアチャイナ関連案件実績

	事業性貸出		預金		経常為替	人民元口座
	件数（件）	実行額（百万円）	件数（件）	獲得額（百万円）	取扱高（百万ﾄﾞﾙ）	開設口座（件）
H22/9	16	1,251	2	950	630	4
H23/3	141	10,902	9	2,422	783	53
H23/9	103	8,713	6	383	849	82
合計	260	20,866	17	3,755	2,262	139

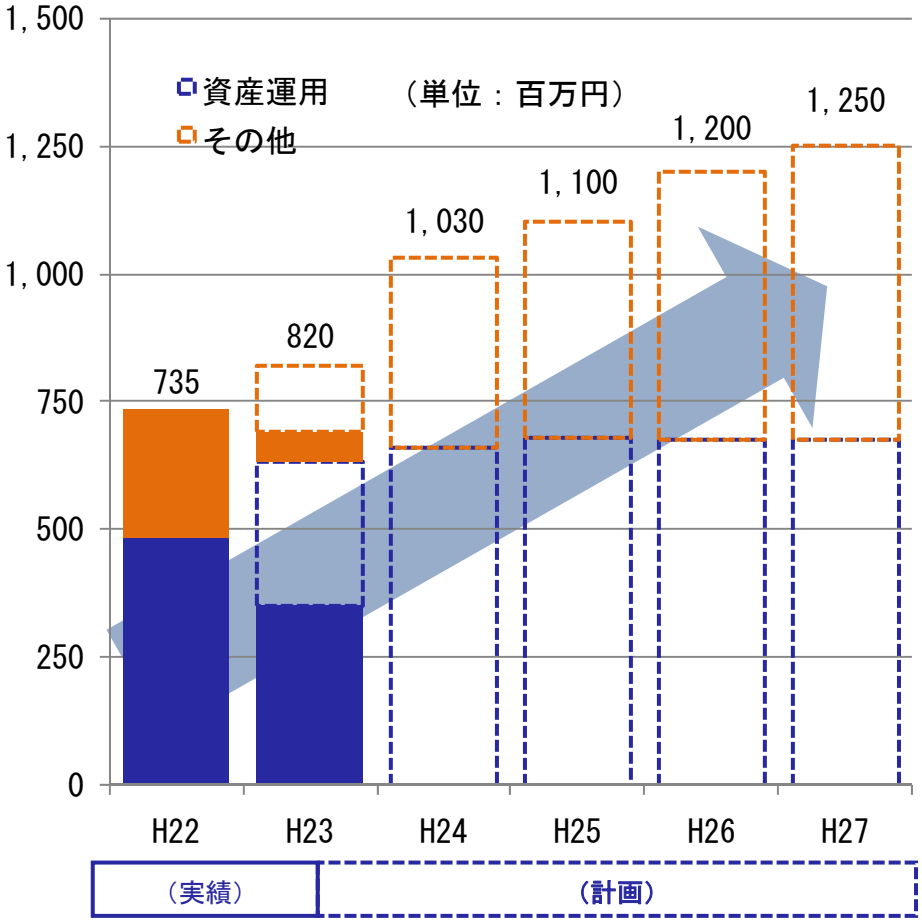
アジアチャイナ関連事業性貸出実績



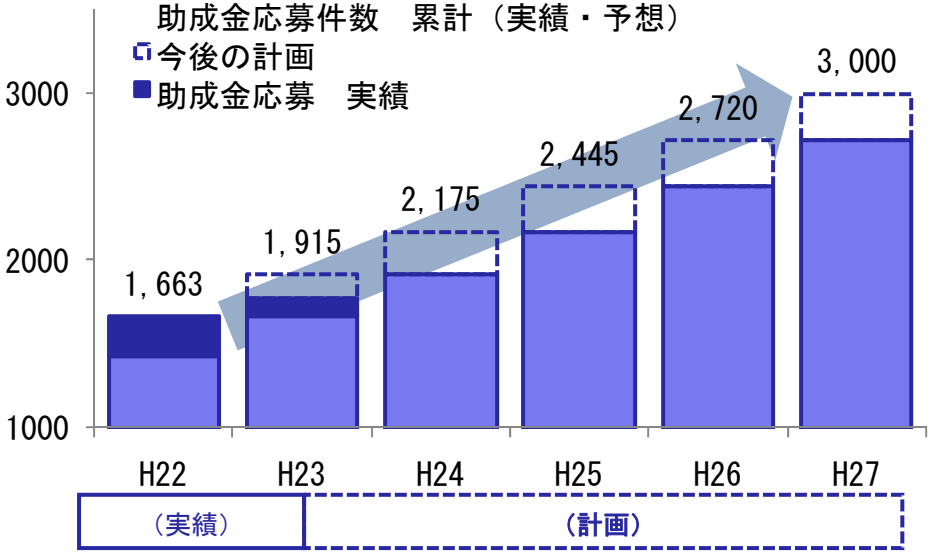
Ⅱ－５－②　３つの独自戦略　～ﾌﾟﾗｲﾍﾞｰﾄﾊﾞﾝｷﾝｸﾞ本部・先進テクノ本部～

■　ＰＢ本部は、機能強化・商品サービスの多様化を通じて基盤を拡充。
■　先進テクノ本部は、地元関西の地域力向上、日本復興につなげる取組みを展開。

【プライベート・バンキング（ＰＢ）本部】

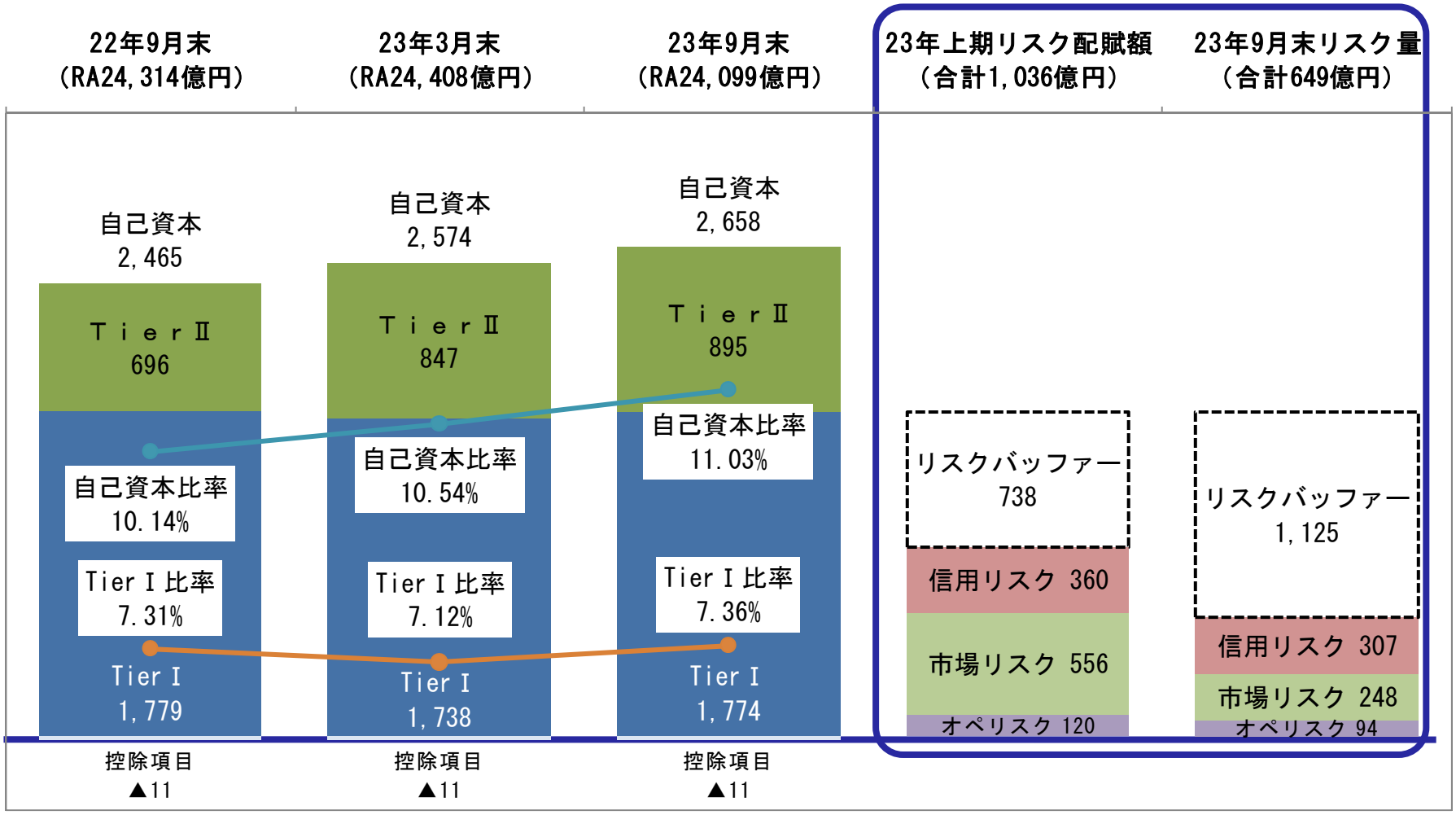


【先進テクノ本部】

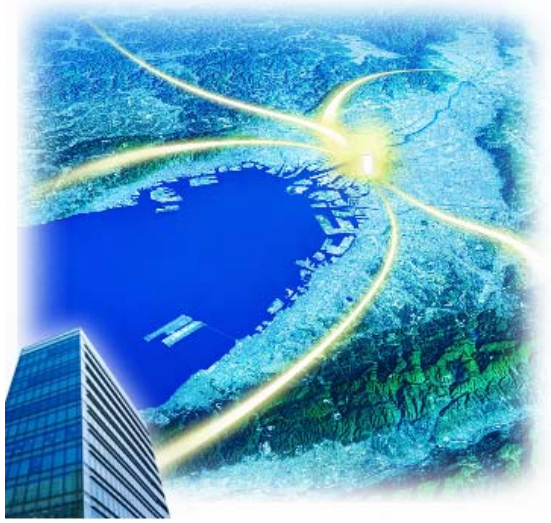


Ⅱ－６　資本の状況

■　純利益の積み上げ、劣後債等の調達により、自己資本比率、Ｔｉｅｒ１比率は上昇。
■　リスクをコントロールし、バッファーも潤沢に確保。



Ⅲ　平成23年度業績予想について



Ⅲ　平成23年度業績予想について

■　本年5月の公表から変更はなく、経常利益・当期純利益は、ともに80億円を予想。

【池田泉州銀行】

（業績予想・単体）　（単位：百万円）

		23年度（予想）	22年度（実績）
1	経常収益	104,000	104,646
2	経常利益	8,000	5,748
3	当期純利益	8,000	6,321
4	業務純益	21,500	22,113
5	実質業務純益（一般貸倒引当金繰入前）	24,000	25,532
6	コア業務純益	18,000	16,477
7	与信関連費用	9,500	13,194

（自己資本比率の予想）

		23年3月末（予想）	23年9月末（速報）
1	自己資本比率（単体）	10%半ば	11.03%
2	自己資本比率（連結）	10%半ば	11.04%

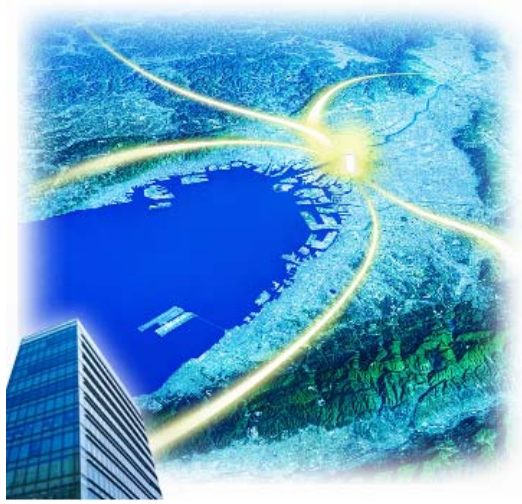
【池田泉州ホールディングス】

（配当予想）

		23年度（予想）	22年度（実績）
1	普通株式	3円	3円
2	第一種優先株式	定款通り（※1）	定款通り（※1）
3	第二種優先株式	定款通り（※2）	定款通り（※2）

定款通り（※1）：196円を18.5で除した額
定款通り（※2）：204円を18.5で除した額

60th
親切で新しい



地域からのご支持No.1を目指して…

- 本資料には、将来の業績、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。

- こうした記述は、本資料作成時点における入手可能な情報に基づき、本資料の作成時点における予測等を基礎として記載されています。また、これらの記述のためには、一定の前提（仮定）を使用しています。これらの記述または前提（仮定）は主観的なものであり、将来において不正確であることが判明したり、将来実現しない可能性があります。

- 当行の財政状態及び経営成績や投資者の投資判断に重要な影響を及ぼす可能性がある事項については、決算短信、有価証券報告書、ディスクロージャー誌、アニュアルレポート等、当行が公表いたしました各種資料のうち最新のものをご参照ください。

- 本資料における将来情報に関する記述は上記のとおり本書の日付（またはそこに別途明記された日付）時点のものであり、当行は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。

- また、本資料に記載されている当行ないし当行グループ以外の企業等にかかわる情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性・適切性等について当行は何らの検証も行っておらず、また、これを保証するものではありません。

- なお、本資料に掲載されている情報は情報提供のみを目的とするものであり、証券の勧誘のためのものではありません。